

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0370400376		
法人名	社会福祉法人美楽会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	〒023-0106 岩手県奥州市水沢区羽田町久保37 (電話) 0197-51-6300		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8.9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	理美容代・おむつ代実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,050 円		

(4) 利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.8 歳	最低	84 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社団医療法人啓愛会、井筒医院、美山病院、森山歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひだまりでは、利用者の誕生会を「家族とのふれあいの日」として、好きな場所で家族とともに一緒にお祝いをする支援が行なわれている。またホーム主催の「夏祭り」では、地域住民や利用者、職員のほか、利用者家族や職員家族など多くの関係者が参加して、地域交流行事となって定着しており、人とのつながりを大切にしながら地域に根ざしたホームとなるよう取り組みを進めている。職員は、利用者の役割や興味を引き出すことに努め、意欲をもって生活が続けられるよう取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価において話題となった食事に関するよりきめ細やかな支援として、関係医療法人所属の栄養士から、献立や栄養バランスについて毎月アドバイスを得ている。また、利用者の重度化および終末期対応について、医療連携サービス研修にて学習し、職員間でその情報の共有を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各職員が評価項目の記入に当たるなど、全職員が評価の意義を理解しながら、自己評価に取り組んでいる。ケアの振り返りやマンネリ化防止の機会としてこの評価を位置づけるとともに、評価での改善課題についても全職員で話し合い、その改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催され、委員である行政区長や地域包括センター、利用者家族および職員との間で情報交換等を行っている。しかしながら、ホームからの利用者の状況や活動に関する報告にとどまっていることが多く、必ずしもサービス向上に向けた会議や話し合いの場とはなっていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現在は出された意見等はないが、普段から家族等の交流を深めて話し合う機会を持つとともに、運営推進会議や行事の際に、気軽に意見等が出しやすい環境と雰囲気づくりに努めている。なお今年度は、家族アンケートの実施を検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域自治会には加入していないが、普段から散歩などを通じて、近隣の方々と交流を図っている。ホーム主催の「地域交流夏祭り」を毎年開催しており、その参加者数が徐々に増えるなど、ホームの理解と交流が深められている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である『健康寿命への心ある支援』を事業所の理念として、確認し合うとともに、その下に「入居者が、自分らしく、健康で、生きがいを持ち、自立して安全に暮らし続けられるよう支援します。』というグループホーム基本方針と、5つの個別方針(※)も定めている。		※個別方針 ①私達は、人生の先輩を敬い、生きる知恵を学びます。②私達は、自主性を尊重します。③私達は、やすらぎのある心地よい空間を大切にします。④私達は、暮らす人、集う人々がお互いに支えあうことを大切にします。⑤私達は、共に考え、楽しみ、喜びを分かち合います。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のしやすい場所に理念を掲示するほか、その実践に向けて、研修や美化など職員の担当を設けている。毎月の全体会で理念を唱和するとともに、理念について取り組み状況を話し合うなど、理念の共有と具体的なケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会には加入していないが、普段から散歩などを通じて、近隣の方々と交流を図っている。ホーム主催の「地域交流夏祭り」を毎年開催しており、その参加者数が徐々に増えるなど、ホームの理解と交流が深められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員が評価項目の記入に当たるなど、全職員が評価の意義を理解しながら、自己評価に取り組んでいる。ケアの振り返りやマンネリ化防止の機会としてこの評価を位置づけるとともに、評価での改善課題についても全職員で話し合い、その改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催され、議題は利用者やホームの状況報告や情報交換等となっているが、結果的には、ホームからの説明や報告にとどまっていることから、今後は委員から意見・提言等をいただくなど、話し合いの場を多く持ちたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、電話等で情報交換や諸連絡を取り合うほか、相談についても、丁寧に対応してもらっている。ホームだより等については、職員が持参するなど、よりよい関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族が来訪する際に、利用者の暮らしぶり等を報告しているほか、遠方の家族等には、利用者の状況等をメモにして送付している。また預かり金については、出納簿の写しを渡し報告している。職員の異動については、来訪の際にそれぞれ紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族等の交流を深めて話し合う機会を持つとともに、運営推進会議や行事の際に、気軽に意見等が出しやすい環境と雰囲気づくりに努めている。今年度は、家族アンケートの実施を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制ではなく、全職員で利用者一人ひとりと日々関わりを持ち、寄り添うことで利用者のダメージ防止に努めている。最近の異動は1名ほどであるが、その職員の異動による利用者のダメージは特にみられなかったとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「ケアは人」という認識の下、職員個々の知識や経験に応じた研修、資格取得に向けた外部研修などに積極的に参加している。その結果についても、内部研修として報告することや回覧などの方法で伝達し、その共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会の定例会や県南ブロックの研修などに参加して情報交換や交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等との話し合いや見学を通じて、可能な限り雰囲気馴染んでからの利用を心がけている。納得のいかないまま利用開始となるケースもあることから、家族等と連携を図り、ゆっくりと時間をかけて、職員や他の利用者との馴染みの関係が深まるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの出来ることや得意なことなどを可能な限り見極め、その活動ができる場面づくりに努めている。職員は生活の知恵や料理の味付け等を学ぶことも多く、利用者と一緒に活動に取り組むなかで、励ましあい、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の趣味や得意なこと、出来ることや関心事について普段の会話、表情等を通しての思いや意向の把握に努めている。把握が困難な利用者についても、ゆっくりと時間をかけて、その思いなどに寄り添うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人及び家族等の意向等を踏まえるとともに、利用者の気になる面だけではなく良い面も活かされるように、職員間で意見を出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングや評価、家族の意見等を踏まえて、6ヶ月ごとに、または利用者の状態変化時に必要な見直しを行うこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診や買い物、理美容の利用や散歩など可能な限り、柔軟な外出支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望のもと、ホームの協力医院やかかりつけ医の受診を支援している。また協力医院による往診が実施されており、その結果等を含めて利用者の健康状態について家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの方針は定められていないが、「どの程度の段階までホームで対応するか」という、対応の方向性について、職員間での申し合わせ、家族等に対する説明が行われ、その共有がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「軽視しない、叱らない、否定しない、拘束しない」の日常ケアの原則の下、トイレ誘導の際大声で呼びかけしないなど、羞恥心に配慮した声がけを心がけている。ケース記録など個人情報についても、利用者等から見えないように保管するなど、適切な管理に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間、レク活動や外出など、急かしたり強制することはなく、一人ひとりの体調や希望、ペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものなどを取り入れてメニューを決め、食事の準備や後片付けなども、利用者と職員が一緒に行なっている。食事は、利用者同士、楽しく会話するなど、和気藹々と楽しみながら摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね週三回の入浴を目安に支援している。時間帯等はある程度決まっているが、利用者それぞれの体調やペースを尊重して対応しており、無理強いせず、仲の良い人同士で入浴するなど、楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや茶碗ふきなど、利用者の出来ることなどを役割として果たすことで、喜びや充実感につながっている。また、踊りや唄、買い物など、好きなことや得意なことで楽しみ、気晴らしが実感できるような支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段から外出を促す声かけや雰囲気づくりに心がけながら、一人ひとりの希望に沿って散歩、買い物、通院などへの外出支援に柔軟に対応している。今年度新たな試みとして、利用者の誕生日を「家族とふれあう日」と称して、それぞれ家族等と一緒に、好きな場所でお祝いする支援を行い、利用者の楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	来訪者の確認等のため、センサーを設置しているが、日中は玄関の鍵はかけていない。なお利用者が独りで外出したときには、さりげない声かけや見守りなどで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度より、ホーム内に消防署への通報装置が設置されている。また、消防署の立会いの下、夜間想定等の避難訓練を実施するなど災害時に備えた取り組みを行っているが、地域住民との協力体制は確立されていないとしている。	○	引き続き、地域の方々の応援・協力が得られるように、運営推進会議の意見等を得ながら地域への働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康面から見守りの必要な利用者については、個々に水分や食事の摂取量等を記録し、職員がその情報を共有している。利用者の状態に応じて、調理方法も工夫するほか、献立や栄養バランスについて、関係医療法人栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井や広い共用空間において、ソファやテレビなどがゆったりと配置されているとともに、壁などには華美にならないようにとの配慮の下、写真や絵などが飾られ落ち着いた空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある使い慣れた鏡台や冷蔵庫、整理ダンスや人形、手づくりの貼り絵などを、それぞれ持ち込んだり、飾ったりして、思い思いに居心地よく住まいをしている。		